

Editor: Tom Toriyama, 6-9-21, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki, 215-0017 Tel/Fax 044-988-7773

AGM & Weekend 2012

2012年のAGM(年次総会)およびWeekendは東京・練馬区の光が丘ドームで行ないます。くわしくは3月にお送りするチラシでお知らせいたしますが、概略はつぎのとおりです。ふるってご参加ください。

2012年6月1日(金)～3日(日)
光が丘ドーム(練馬区高松5丁目)
都営地下鉄・大江戸線・光が丘駅下車15分
(宿泊はホテルカデンツア光が丘)

¥27,000

講師 マービン・ショート
音楽 小海弘子+大竹奏

New Year Dance 2012

2012年1月9日(月・祝)1時～4時30分

赤羽会館 4Fホール

¥1,000

演奏 小海弘子+大森ヒデノリ

MC 有田典和+小山かおる

Mrs Stewart's Jig	J	Book 35
The College Hornpipe	R	Book 20
The Birks of Invermay	S	Book 16
The Whiteadder Jig	J	Johnstone
Broadford Bay	R	Leaflet 2
The Golden Wedding Strathspey	S	Book 33
Johnnie's Welcome Hame	R	Book 32
The Gilly Flower	J	Book 36
The Flower of Glasgow	S	Book 46
Polharrow Burn	R	3 by Foss

The Bees of Maggie Knockater	J	Drewry
The Byron Strathspey	S	Drewry
Mrs MacLeod	R	Book 6
Monymusk	S	Book 11
The Montgomerie's Ranf	R	Book 10

Scottish Country Dancer 13号

会員のみなさんに本部から直接、英文マガジン Scottish Country Dancer 第13号が届けられる時期です。10月末になってもマガジンが届いていない場合は本部の会員名簿の不備が考えられます。

★マガジン未着

★宛名のお名前・住所に誤りあり

の場合は、セクレタリ鳥山豊喜 T & F 044 988-7773 までご連絡ください。至急に取り寄せます■

ブランチクラス

ビギナーズ・クラス

11月14日・28日(月) 1.30-4.00

以降第2・第4月曜日

千代田区スポーツセンター 5F

講師 11・12月 三木真理

1・2・3月 長峯真弓

¥500/クラス

担当 井口弓子 048-924-9447

インターミディエイト・クラス

11月7日(月) 1.30-4.00

講師 掛川純子

千代田区総合体育館 5F

12月5日 講師 篠塚昌子

1月 休止

2月6日 講師 神倉那智子

¥500

担当 山田美代子 03-3696-9180

ゼネラル・クラス

11月5日(土) 6.20 - 8.30

講師 小山かおる

昌平童夢館2F

12月3日 講師 鳥山豊喜

1月7日 講師 西森典子

¥500

担当 篠塚昌子 029-855-4728■

講師にマービン・ショート

ーウィークエンド&AGM 2012ー

2012年6月1日(金) ~ 3日(日)

場所は選定中

音楽 小海弘子+大竹奏

2012年のウィークエンド&AGMは6月1日(金)~3日(日)に行ないます。ここ2年ほど参加費用低減のため、クラスはランチ会員による指導でしたが、今回はBHS ボーダー・ランチの前チェアマンで、RSCDS サマースクールの講師、そしてなによりも Exams Tokyo 2010 時の Unit 5 チューターであったマービン・ショート Mervyn Short がクラスを指導します。マービン自身2回目の日本訪問を楽しみにしています■

ランチ ホームページ

東京ランチのインターネット・ホームページは吉澤敦子さんに維持更新をお願いしておりました。吉澤さんのご逝去にともない、長らく更新がなされず、画面は2年間古いままになっていました。このほどホームページ担当を新たに三木真理さんをお願いすることになり、9月下旬に新しい画面ができました。新しいURL(ホームページ・アドレス)は、
<http://rscdstokyobranch.web.fc2.com> です。
これからもご期待ください■

運営委員会報告

8月6日

1. 10/22 Social Dancing のプログラム、ミュージシャン、MC を決定した。案内のチラシは8

月のランチニュースに同封する。

2. 1/9 New Year Dance 2012 のミュージシャンを決めた。MC は候補者を選出し、受諾可否を問い合わせる。
3. 会員の三木真理さんから「ランチ・ホームページの更新がなされていない。日本語のみでよければ更新を手伝ってもよい」との申し出があり、ご厚意をいただくことにした。
4. 9月 General Class は8月に引き続き学校行事のため昌平童夢館使用不可となり、千代田区スポーツセンター多目的室で行なう
5. Unit 1 Examination は10/8(土)、埼玉ランチ主管で行なわれる。

9月3日

1. 1/9 New Year Dance 2012 のMC を決定した。ダンス・プログラムは10月にきめる。
2. 2012年6/1-6/3のWeekend 2012はレイクホテル西湖を予約済みであるが、交通不便と不評であり、練馬区、鹿嶋市、つくば市のホテルに開催可能性を問い合わせる。外国人講師を呼ぶことにし、謝礼額を決め、かつ候補者(複数)を選んだ。来日可否を問い合わせる。
3. 日本語マガジンの東京ランチ版発行が常時遅延状態にある。編集作業担当を会員によびかけ、早期発行をはかる。
4. 10月のGeneral Class はまた千代田区スポーツセンターとなる。
5. 各ランチとも試験委員が出そろったので10/9(日)、大久保地域センターで2013年の試験実施のため、試験委員会発足のミーティングを開いてもらう■

ランチ運営委員

チェアマン	西森典子	043-485-2528
セクレタリ	鳥山豊喜	044-988-7773
	t-toriyama659@jcom.home.ne.jp	
トレジャラ	松木道子	042-475-9054
メンバーシップ・セクレタリおよび		
ニュース担当	疋田千鶴子	047-467-1922
委員	井口弓子	048-924-9447
	山田美代子	03-3696-9180
	篠塚昌子	029-855-4728
	金田治子	043-485-8951
ホームページ	三木真理	0466-81-9961

クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス

1月24日 堀澄子	
Miss Hadden's Reel	Bk 23
Lady Dumfries	MMM
Ross Meor	Bk 29
2月14日 堀澄子	
Sleepy Maggie	Bk 11
The Moudiewort	Bk 11
Pretty Polly	Bk 28
2月28日 堀澄子	
Miss Welsh's Reel	Graded
Happy Returns	MMM
Fair Donald	Bk 29
5月9日 西森典子	
Davy's Locker	Graded
Espie MacNabb	MMM
The Braes of Mellinish	Bk 25
5月23日 西森典子	
Saw ye my wee thing	Bk 25
Roxburgh Castle	Bk 6
Duchess of York	Bk 27
6月13日 西森典子	
Jig to the Music	Graded 2
Lady Dumfries	MMM
Lochiel's awa to France	Bk 15
6月27日 西森典子	
Bea's Delight	Bk 43
Miss Nancy frowns	Bk 14
Culla Bay	Bk 41
7月11日 大野悦子	
The Maid of Currie	Children
The Milltimber Jig	Bk 41
Scottish Rumble	Bk 5
7月25日 大野悦子	
Anderson's Rant	MMM
The Fyket	1965
Dalkeith's Strathspey	Bk 9
8月8日 大野悦子	
Cromartie's Rant	Bk 31
I'll mak' ye fain to	
Follow Me	Bk 6
Miss Catherine Allan	Lflt 17
8月22日 大野悦子	
The Moudiewort	Bk 11

Not I	Bk 28
Invercauld's Reel	Bk 11
9月12日 大野悦子	
The Lass of Richmond Hill	Graded 2
Collichur	Bk 30
There's Nae Luck about	
the Hoose	Bk 10
9月24日 大野悦子	
The Montgomeries' Rant	Bk 10
Willie's Rare and Willie's	
Fair	MMM
The Stoorie Miller	Bk 21
<hr/>	
インターミディエイト・クラス	
2月7日 渡部多美子	
The Bramble Bush	Bk 25
Strathglass House	Bk 13
The Dancing Man	Graded 2
3月7日 大西弘美	
The Cadger's Roadie	Zadworny
City of Belfast	Mulholland
Dumberton Drums	Bk 5
The Royal Deeside	
Railway	Bk 40
5月2日 神倉那智子	
The Dancers' Wedding	Bk 41
The Zoologist	Bk 46
The Argyll Strathspey	Bk 35
6月6日 中田多鶴子	
The Countess of	
Lauderdale's Reel	MMM
Lass o' Loudon	MMM
Shinkansen	Dix
Kelley's Aye	Derrick
7月4日 鈴木百代	
The Roserath Cross	Bk 41
Oh, Flowers	Watanabe
A Castle in the Air	Book 43
The Byron Strathspey	Drewry
8月1日 疋田千鶴子	
Eileen Watt's Reel	Wilkinson
Bedrule	Bk 33
It's Nae Bother	Graded 2
9月5日 星野薫	
The Weathercock	Graded 2
Jean Martin of Aberdeen	2006
Crockett's Victory Garden	Thurston
The Highland Light	

Infantry (The H.L.I.)	Skelton
アドバンスト・クラス	
1月8日 石田由美/青山るり	
The Weathercock	Graded 2
The Hyperactive Reel	Graded 2
The Silver Thistle Ball	Fogg
The Maskin Rung	Donaldson
Green Grow the Rashes	Bk 12
2月5日 長峯真弓/市川洋子	
Ferry Boat	
Sunday Morning	1982
The Fountain Strathspey	Morris
The Ski Tow	Drewry
Sir Murdoch Macdonald's Strathspey	Bk 31
Never at Sea	Haddow
3月5日 境雅子/市川洋子	
A Trip to Drakensberg	Bk 38
The Bridgwater Geordie	Queen
Simon Brodie	18 th Cent.
The Breakdown	Mitchel
Forget Me Knot	Youngman
On the Quarter-deck	Boyd
6月4日 寺久保ヒロ子/小海弘子	
Johnny McGill	Bk 11
Corn Rigs	Bk 4
The Gentleman	Bk 35
The Restless Ghost	Bulteel
Ken and Lavinia's Ruby	Waddington
7月2日 五十嵐成子/村上美枝子	
The Bejant Royal	Derrick
Lang Frae Glasgow	McOwen
Lady Susan Montgomery	Lflt 13
9月3日 林浩子	
Peggy Dewar	Bk 38
Bonnie Ina Campbell	Bk 37
The Dark Mile	Priddey
The Morland Knot	Drewry
Luck to Lyone	Haynes

スコティッシュ・カントリー・ダンシングがそんなにも楽しいものであるならば（そのとおり！）、その音楽がまったく興奮するものであるなら（しかりである！）、そしてダンスグループが来る人をおおいに歓迎し（ほとんどがそうである）、ダンス界に魅力があり、伝統と行事を一体化しているのであるなら（これもしかり）、なぜわれわれのところに新しいダンサー、とくにもっと大きなダンスの世界、つまりイングリッシュ、スクエア、コントラ、サルサ、フォーク、オールドタイムの世界からダンサーが入ってこないのだろうか？

これは複雑な問題であり、簡単に答えが得られるものではない。1950年代から70年代においてはたくさんのスコティッシュのグループそしてランチに、新人と同じくらい多数のベテランダンサーがいて、多くのクラスをもち、頻りにソーシャルや特別のイベントを行っていた。もうそんな面影はない。多くのグループは弱小化し、クラスやダンス会において、セットをつくるのにあがいている。北アメリカではダンス会はまだ盛んであるけれども。

多くの外部要因があるとはいえ、この重要問題は、われわれの最大の強みである、ティーチングのなかにあるとわたしは考える。みなさんにはショックかもしれないが、北アメリカ（に限らず）におけるSCDのティーチングについて、気を入れて観察してほしい。

数年前にわたしが参加したイベントのもようを述べたい。そのイベントはイングリッシュとスコティッシュ・カントリー・ダンス混合のワークショップで、両方の分野からのダンサーがいた。午前中はスコティッシュ、午後にイングリッシュという時間割である。2つのワークショップとも著名で有能なティーチャー連が指導し、十分に計画され、おもしろく、楽しい内容であった。ティーチャーたちはつながりを持ち、各クラスにすてきな批評を行なった。両ワークショップともトップクラスの生の音楽があった。クラスは2.5時間で、途中休憩があった。生徒は両方とも経験者で、アドバンストのレベルであった。

SCDに人をひきつけられないのは なぜだろう？

ジェフリー・セリング

スコティッシュの部で、われわれは上級インターミディエイトからアドバンストの部類に入る4ダンスをならった。ティーチャーは各ムーブメント、各フォーメーションをくわしく説明し、その間クラスは立ってそれを聞いていた。なにかうまく行かないことがあると、ティーチャーは生徒た

ちを立たせたまま、またもゆっくりと明確にその部分を説明した。ティーチャーはデモンストレーションもやったが、各ダンスの要点をわれわれは立ったまま聞いたのである。8ないし16小節ごとにダンシングしたことになる。やがてダンスの説明が終わり、われわれはセットを作った。ティーチャーはダンス全体をゆっくりと明確にリカップし、われわれは立ったままそれを聞いた。コードが奏され、ダンシングがはじまった。セットが崩れたとき、セットのメンバーはそれを直そうとした。直るときもあり、直らないときもあった。ティーチャーは部屋の前方でそれを見ていた。ティーチャーはなんで崩れたのか、なにがむずかしかったかを前向きに指摘した（われわれはなんで混乱したのかわからなかった）。このパターンが午前中ずっと繰返された。

これがクラス、ワークショップの典型的なやり方である。つまり、たくさんの語り、たくさんの分析、たくさんの立ったままの聞きとり、2.5時間に対比する、驚くべき短時間のダンシング、熱心で才能あるミュージシャンによるほんのわずかの演奏、というわけである。

午後になった。イングリッシュ・ダンスのティーチャーもまた上級インターミディエイトからアドバンストの部類に入る（なかには相当挑戦的なものもあった）11のダンスを指導した。4つのスコティッシュ・ダンスとはえらい違いである。クラス開始のときから、われわれはもう動いていた。音楽は鳴り続けているかのようだった。よく知られているところはすぐに踊り、むずかしい部分にはすぐデモンストレーションがあってクラスはそれにトライし、音楽で踊る。すべてのダンスを踊り終えたあと、ティーチャーは各フォーメーションを解説したが、われわれがやったことを理解できるまで説明してくれた。ダンスをわかりやすくすること、動きとダンシングを続けさせること、必要なとき以外はティーチング・ポイントとフレージングを省略すること、それがティーチャーである、と思われた。トリッキーな、めずらしい動きのある11ダンスであったにもかかわらず、その午後はクラスをこえるソシアル・イベント、が感じられた。

2つのクラスの違いはきわだっていた。講義中心のスコティッシュ・クラスで、イングリッシュダンサーは不安そうであったし、さらに驚くことはスコティッシュダンサーが口頭説明、指示をや

すやすと受け入れていることであった。語りという静的指導に慣れているのがスコティッシュダンサーであり、おもしろいレッスンとはふざけたものであって、かれらには適当ではないと思われた。ダンサーたちは立ったままティーチング・ポイントを聞いていたが、ダンシングがスタートするとそのポイントの多くが身につけていないことは明らかだった。数ダンスだが、スコティッシュダンサーは、イングリッシュダンサーにくらべうまく踊っていなかった。スコティッシュダンサーは立ったままの方法を『われわれのやりかた』として受け入れているのではないだろうか。

レッスン後の食事でもわたしはイングリッシュダンサーのなかに入り、かれらはきつい意見を述べてくれた。1人の女性は「ダンスと音楽が大好きだけれど、長く立ってなんかいられない。背中が痛くなってくる」と言った。べつの1人は遠慮なしにこう言った。「それがスコティッシュ・ダンシングに行かない理由だよ。ダンシングはクールだし（かっこいい）、音楽も上品。でもあれこれとお説教されるのはごめんだね。学校はもうたくさん。わたしは踊りたいだけなんだ」。3人目のイングリッシュダンサーは「スコティッシュ・ダンシングには立ちながらの長時間聞きとりがある。そのつぎに来るのは頭に血がのぼった数分間だ」。1つのダンスを指導するのに40分、だが実際のダンシングはたった2分（4x32のセットダンスで）というわけである。わたしはかれらの見方を理解した。わたしもそう思う。

わたしは、スコティッシュ・ダンスのティーチャーみんながこのように立たせたままのトーク指導をやっている、とはいわない。しかし多くのティーチャーが思っている以上に、このやりかたがふつうなのである。試験トレーニング時のチューターはデモンストレーションを口うるさくいう。トーキングではない。チューターは、クラスの動かし方、分割、練習の各要素を見きわめ、ついでそれらをまとめあげるよう、受験生に要求する。だがティーチャー連中は、受験生だったとき、クラスを動かし続けたのに、いつしか語り中心のやり方にもどっているのである。

わたしはポーランド・フォークダンスのグループでも踊っており、ときどきフォークダンス・フェスティバルにも参加している。その舞台裏だったか楽屋だったか、スコティッシュのクラスに顔

を出しているダンサーがこう言っているのを耳にした。「ティーチャーはつま先をまっすぐとか、スコティッシュ・スタイルはこうだとか、おしゃべりばかり。わたしたちはもっと踊りたいのにねえ」。

最近、わたしはあるワークショップのビギナーズ・クラスに、なにかしら得るところがあるだろうと参加した。ティーチャーは各ステップをリズムどおりにりっぱにデモンストレートし、クラスをトライさせた。だが、レッスンが各ステップのより細かなポイントに入ったとき、ティーチャーは「足を開くことを考えて」とか「スキップを考えて」と、思考をクラスに求め続けた。ステップは肉体的な動きであり、クラスは運動をとおして各ムーブメントを感じ取ることを目的にしている、とわたしは考える。そして能力を高めるために肉体的な動きを練習し、スタミナ、強さ、柔軟性を上げるために運動を用いるのである。まっすぐなつま先について思考することは、経験を積み重ねることほどには有効ではない。まっすぐなつま先は実際にやってみて感じ取るものであり、ステップ練習でゆっくりしたモーションでやるべきである。

かずかずの経験者対象のクラスにも参加した。その一つで、ティーチャーたちは、トークスルーのみでダンスを体得してもらうのが究極の目標と考えているように思われた。クラスがどうしようもなく混乱したときだけ、ムーブメントとフォーメーションを歩く、という姿勢であった。入り組んだ説明中に、べつのティーチャーが「よくわからないんで、歩きたいんだけど」と求めた。指導していたティーチャーはいらだちながら「ノー、必要ない。むずかしくない。よく聞いていりゃわかる」と答えた。われわれはみな沈黙したまま、動き方を聞くだけだった。そのダンシングにうつったとき、すぐにセットが壊れた。指導ティーチャーはしぶしぶ、「じゃあ歩こうか」、となったのである。

わたしの経験では、ことばでダンスの方向がわかるダンサー（言語人）もいるが、ほとんどは目で見て理解する（目視人）か、ウォークしてわかるダンサー（運動人もしくはそれらの組合せ人）である。言語人が最高位のスコティッシュダンサーであるとか、ことばでわかるほうが他の方法よりも優れているという説は、まったくの誤りであ

る。われわれのティーチングはあらゆる種類の人たちに受け入れられる必要があり、よりよいダンシングに向かってそのひとたちを支援するというティーチングでなければならない。その目は、ダンスを楽しむという方向に向いていなければならない。

わたしはわがブランチャやサマースクール、ワークショップのクラスにしょっちゅう参加しているが、ティーチャーたちは要点をこれでもかこれでもかと説明する。ないしはクラスのほとんどが体得できっこないティーチング・ポイントに焦点をしばっている。基礎的なリズムについての強調は十分ではなく、生徒の多くがベーシック・ムーブメントをマスターしていない場合でも、ティーチャーたちはフット・ポジションとダンシングの要点から指導をスタートするのである。あるダンサーなどは20年以上にわたり、パ・デ・バスクにおけるその2ビート・ステップを毎週注意され続けている。ある面で、われわれはダンサー連中の不完全を容認すべきである。これならクラスが体得でき、向上できるというティーチング・ポイントに的をしばるならば、生徒は達成感を得られるし、立ったまま聞くというむだな時間を最小化できる。

わたしはクラスでは長いリカップはしないとこのに全面的に賛成する。30分間練習したばかりなのである。最初の8小節は覚えているし、すぐに踊りたいのである。

クラスを動かし、ウォークさせ、踊らせるかわりに、なぜ、しゃべり、説明するティーチャーを続々と輩出させているのか、わたしにはまったくわからない。われわれは、教えるにはより動的なアプローチを強調せよと、ティーチャー・トレーニングと試験のプロセスで経験してきたのに、試験ののち年とともにそれが記憶から薄れてしまっている。われわれは意識せずに試験を再現できるだろうか？ 短時間に多くのポイントをつめ込みすぎているだろうか？

イングリッシュ/スコティッシュの指導法対比にもどろう。両方のティーチャーである大御所のブルース・ハミルトンは、よく知られていることだが、つぎのように述べている。

ウォークできるなら、語らない。

ダンシングできるなら、ウォークしない。
語りを最小にデモを最大にするなら、ポイント
を少なくしてみんなを動かせるなら、クラス
でもっと多くのダンシングができるなら、わ
れわれはイングリッシュ、フォーク、オール
ドタイムのダンサーをひきつけることがで
きる。

なんといっても、みなさんご存じのように、スコ
ティッシュ・カントリー・ダンシングはまさにビ
ューティフルでエキサイティングなソシアル・ダ
ンスのジャンルなのだから。(‘Why Aren’t We
Attracting More Dancers to Scottish Country
Dancing?’ by Geoffrey Selling, from Tactalk June
2011) ■

新 CD ・ Book 紹介

Tom Toriyama

(1) Scottish Country Dancing Volume 3 by Colin Dewar’s SD Band (RSCDS CD071)

The Bees of Maggieknockater (4x32J), The Belle of Bon Accord (4x32S), Blooms of Bon Accord (4x32R), The Celtic Cross (4x48R), Curleywee (4x32S), Good Hearted Glasgow (8x32J), The Highland Rambler (8x40R), The Highlandman’s Umbrella (4x32R), J B Milne (8x32R), Letham Ladies (4x40S), Lord Maclay’s Reel (4x40R), Mrs MacPherson of Inveran (8x32R), The New Scotland Strathspey (4x40S), The Rothesay Rant (4x32J), Seton’s Ceilidh Band (4x64J), Shiftin’ Bobbins (8x32R), The Saint John River (4x32S), A Trip to Bavaria (4x32R), The White Heather Jig (4x40J)

(2) Three Hands Across by Ian Muir and the Craigellachie Band (CBCD09)

Bruce Fraser’s Jig (4x32J), The Reel of Dunans (8x32R), The Birthday Present (8x32S), The Faculty of Actuaries (4x32J), The Montgomeri Strathspey (3x32S), The Frimley Green Reel (8x32S), The Burntisland Jig (5x32J), A Gin and Tonic (3x32S+3x32R), The Three Shires (8x32R), Salute to the Borders (8x32S), The Shortfield Jig (8x40J), The Queen’s View (8x32R), Shetland Waltzes (7x32W), Slow Air

(3) Reel of Puffins by Jim Lindsay and his SD Band (HRMCD020)

Burnieboozle (8x32R), Let the Hackles Rise (4x48J), Gang the Same Gate (8x32S), Summer Wooing (8x32R), Marigold (8x40J), Bruce’s Men (3x32S), The Highland Rambler (8x40R), Mrs Stewart’s Jig (8x32J), Seann Truibhas Willichan (8x32S), The White Cockade (8x32R), The Saltire Medley (48S+48R), Bedrule (8x32S), The Kelloholm Jig (8x32J), Reel of the Puffins (4x32R)

(4) 10th Anniversary Collection of Scottish Country Dances and Dance Tunes (埼玉ブランチ)

The Braiding Reel (32R-3C), Happy Smile (32R-3C), The Matsuri Strathspey (32S-4C), On the Toe (32J-4C), The Rainbow of Saitama 32J-3C), Seniors be Full Power (32J-3C), Yaezakura, or Double Blossoms (32S-4C), Subarashii Saitama Strathspey (32S-SQ)

(1) は、旧コリンズ・ブック中の非 RSCDS ダンスの CD である。旧コリンズ・ブックはコリンズ社が出版を中止したため、RSCDS が版權を譲り受け、あらたに ‘A Guide to Scottish Country Dancing’ と名前も変えて 2011 年に出版された。本の中身は変わっていない。本に記載されたダンス中、ケイリ・ダンスは Volume 1、RSCDS ダンスは Volume 2 として本部から CD が販売されているが、このほど前述のとおり

19 の非 RSCDS ダンスの音楽を収録した Volume 3 が出版された。本に載っている非 RSCDS ダンスをほぼ収録している。The Saint John River は作者のブルーデンス・エドワーズが「St John…と省略形にしないしてほしい」というため、フルスペリングで表記されている。この The Saint John River、ふつうは The Bonnie Lass o’ Bon Accord がリード・チューンであるが、The Belle of Bon Accord にこのチュ

ーンをもっていったため、The Singing Bird をリード・チューンにしている。演奏は1998年録音の前2作と同じコリン・デュワー・バンドで、コリンとドラムスのガス・ミラー以外は新しいメンバーに替わっているけれども、音楽に対する概念は変わっておらず、フィドルが加わったぶん、にぎやかな演奏になっている。解説カードによれば、フィドル演奏は米国で録音し、スコットランドで他の演奏と重ねあわせた多重録音盤である。どのトラックも軽快ではっきりしたリズムがあり、さすがにコリン・デュワー！と思わせるいい演奏である。

【注文略号：コリン・デュワーCD】

(2) はBHS ボーダー・ブランチ制作のダンスブックとCDのセット。同ブランチはロンドンの西、バークシャー、ハンプシャー、サリー3県にまたがるブランチで、関東でいえば渡良瀬遊水地みたいな関係にある。マービン・ショート、アン・ディックスなど同ブランチの会員が作った12ダンスを集めている。ブック前文で「出版の前に会長のブルース・フレイザーが亡くなったことが残念でならない」とマービンが述べている。

Burrtisland はバートアイランドと読む。トリッキーなダンスはなく、すべて平易なダンスであるが、The Reel of Dunans におもしろい動きがある。CD演奏はイングランドのイアン・ミュア・バンドで、六重奏にもかかわらずやや線の細い印象である。いちばんの疑問は全トラックの音量が小さいことで、再生装置が非力な場合、か細い音しか出てこない。とはいえ、23ダンスから選ばれた12ダンス、それぞれに楽しい。

【注文略号：BHS セット】

(3) はよく知られているダンスを集めたジム・リンジー・バンドのCDである。ジム・リンジーはRSCDS Book 8のCDを演奏し、ニュージーランドのサマースクールでも音楽コースの先生をつとめた実力派である。ロイ・ゴールドリングの遺作ダンス集を演奏したミュリアル・ジョンストンとのデュオ盤はピリッとしたところがなく、Reel On など、他に録音がないのでしぶしぶ使うというところだったが、このCDではBook 8 CD同様、きちんとした音楽を展開している。Seann Truibhas Willichan は後半に盛り上がりを見せ、Bedrule ではリズムのはっきりした(いいかえればオリジナル・チューンの持ち味を薄くした)ストラスペイに仕上げている。Marigold の代替曲は、SCD音楽に対する原理主義者ならまゆをひそめる選

曲である。クラスで、ときには特異な演奏でダンスングを楽しみたい、というのに適している。

【注文略号：ジム・リンジーCD】

(4) は埼玉ブランチ10周年記念のダンスブック。それぞれのダンスの感想はみなさん自身でつかんでいただきたい。

【注文略号：埼玉ブック】

以上の品物のご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、

郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチ
でお申し込みください(送料込み)。

コリン・デュワーCD	¥2,000
BHS セット	¥2,800
ジム・リンジーCD	¥2,000
埼玉ブック	¥600

ショップ担当 金田治子 043-485-8951

hrk.kaneda@gmail.com

締切り 10月28日(金)

お渡し予定 11月末■